

全柔連だより

題字 / 嘉納行光

発行人 / 嘉納行光

編集 / 広報委員会

発行 / 財団法人全日本柔道連盟 (☎03-3818-4199)

「50周年記念誌」

全日本柔道連盟“半世紀”の記録 完成へ

本年度、柔道界の最大のイベントである全日本柔道連盟創立50周年記念式典・祝賀会は、4月29日の全日本柔道選手権大会終了後、東京・赤坂プリンスホテルで多くの柔道関係者の出席、協力のもと終了しました。また50周年記念大会は、主要大会が終了し、対象大会を幾つか残すのみとなっています。さらに50周年の節目を飾る「記念誌」も、最後の追い込みに入り、皆様のお手元へ届くのは間近です。ご期待下さい。



戦後の「柔道記録」
これ一冊でOK!!

タ(平成8年)大会まで、多くのチャンピオンを生みました。しかし柔道が世界的になるにしたいが、チャンピオンへの道のりは至難な状況となっております。ヘーシクの前に散った東京大会。日本中が涙した山下泰裕(ロサンゼルス大会)古賀稔彦(バルセロナ大会)の金メダル。まさかの銀メダルに終わった田村亮子のアトランタ大会までの熱き戦いをお届けします。

◆ 全日本選手権者の秘蔵写真も公開へ

昭和23年、戦後の第1回全日本柔道選手権大会優勝者・松本安市に始まり、平成11年の篠原信一まで、52年間に26名の王者が誕生しています。その中には、山下泰裕の驚異の9連覇、小川直也の5連覇(7回)をはじめ、死闘を繰り返し“神猪時代”を築いた神永昭夫(3回)猪熊功(2回)。また中量級・岡野功の2度にわたる優勝など、

全日本柔道選手権大会のハイライト、秘蔵の写真集で、52年間の熱戦を振り返ります。

◆ オリンピックの熱き戦いぶりをお届け

昭和39年東京オリンピックより、五輪種目となった柔道。前回のアトラン

◆ 柔道談義、今だから話せる柔道秘話
ザ・柔道の変遷 戦後の全日本柔道選手権出場の代表者が一同に会して、柔道談義に花を咲かせます。今まで語られなかった秘められた思い出話、今だから話せる逸話話等、大いに語っていただきます。また女子柔道50年の歩み等についても、特集ページ、座談会等を企画しています。さらに48都道府県の柔道事情や50年の歩み等についても報告されます。(文責: 淵辺吉博)

嘉納会長、全日本柔道連盟創立50周年式典で御挨拶

「全日本柔道連盟創立50周年記念式典にあたり、全国各地の柔道人に心から御礼申し上げます。明治15年嘉納治五郎師範によって創始されました講道館柔道は、師範を中心とした門弟の熱意と努力により、世界に発展して行きました。その過程の中で、昭和24年全日本柔道連盟が創立され、今年50周年を迎えました。本連盟の母体である各都道府県の連盟・協会も昨年から今年にかけて50周年を迎えています。

昭和20年の敗戦により、柔道を含む学校での武道が占領軍に

よって禁止され、大変な時期がありましたが、全柔連、各都道府県の関係者の熱意と努力により、今日の隆盛を見るに至りました。その後、オリンピック種目にもなり、現在世界各国で非常に盛んに行われています。今では日本の柔道というより、世界の柔道となった現在、日本の柔道人のみならず、世界の柔道人がお互いに心をつなげて協力し合うことが大切です。」



(写真提供/ベースボールマガジン社「近代柔道」)



柔道発展へ ご苦労様でした!!



功労賞受賞者を代表して、嘉納会長より横地治男氏が賞状を受け取る

(写真提供 / ベースボール・マガジン社「近代柔道」)

▶記念式典には、各県から多くの人々が出席した

記念式典では、50周年記念事業の一環として、これまで全柔連に多大なる貢献をされました78人の功労者の表彰。また協賛スポンサーとして全柔連を側面より援助されました協賛社67社に感謝状が贈られました。全柔連への貢献、協力、本当にありがとうございました。



功労賞受賞者

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 二瓶 英雄 | 蓮見 弘 | 井出 友則 |
| 須貝 忠吉 | 利根田 康年 | 向 健三 |
| 石岡 貢 | 青柳 正吾 | 東 正雄 |
| 岩淵 侑 | 武田 勇 | 児玉 秀男 |
| 多田 孝三 | 館山 証利 | 望月 映英 |
| 夏井 昇吉 | 工藤 喜代廣 | 伊藤 秀雄 |
| 板垣 英雄 | 松木 幹之甫 | 仁熊 昭男 |
| 石田 昭二 | 冲永 莊一 | 神谷 邦雄 |
| 工藤 亥三郎 | 大坂 泰 | 後藤 忠彦 |
| 関 正夫 | 水野 留次郎 | 加藤 文藏 |
| 増山 陽章 | 佐藤 哲也 | 遠藤 迪夫 |
| 大林 宥範 | 谷 哲夫 | 藤田 哲郎 |

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 加藤 俊雄 | 竹村 茂昭 | 加藤 秀雄 |
| 嶋田 美継 | 藤田 弘明 | 川村 禎三 |
| 天崎 一二 | 関川 滋二 | 工藤 信雄 |
| 森田 莊二 | 吉里 武正 | 齋藤 裕 |
| 杉本 秀應 | 麻値 敏秀 | 佐藤 治夫 |
| 安田 三郎 | 八田 義一 | 醍醐 敏郎 |
| 藤村 茂 | 法亢 保晴 | 寺田 栄一 |
| 菅原 弘 | 横田 六十一 | 中山 善衛 |
| 土肥 貢 | 石川 忠雄 | 新妻 弘一 |
| 久保田 迪夫 | 安藤 治夫 | 松本 甫 |
| 村本 鎮雄 | 安部 一郎 | 松本 芳三 |
| 湊 庄市 | 大澤 慶己 | 山辺 正路 |
| 濱本 義明 | 片倉 邦雄 | 横地 治男 |
| 小栗 更一郎 | 加藤 卯平 | 米澤 三郎 |

感謝状受賞者

- | | | | | |
|------------------|---------------|----------------|--------------|-------------------|
| 株式会社青山 | サントリー株式会社 | トヨタ自動車株式会社 | 社団法人共同通信社 | 株式会社フジテレビジョン |
| 旭化成工業株式会社 | 新日本製鐵株式會社 | 社団法人日本柔道整復師会 | 株式会社時事通信社 | 株式会社ベースボール・マガジン社 |
| 株式会社郁栄商会 | 有限会社ジャイアンツギフト | 日本交通公社団体旅行新宿支店 | 株式会社朝日新聞社 | 日本柔道新聞社 |
| 株式会社ウエノシステック | 株式会社ジャパンエナジー | 日本生命保険相互会社 | 株式会社中日新聞社 | 株式会社コンジュンデザインオフィス |
| 有限会社稲葉プランニング | 住友海上火災保険株式会社 | 日本中央競馬会 | 株式会社西日本新聞社 | 裏千家千宗室 |
| 大塚製薬株式会社 | セイコー株式会社 | 株式会社博報堂 | 株式会社毎日新聞社 | 九州柔道協会 |
| 株式会社上組 | 西武不動産株式会社 | 早川繊維工業株式会社 | 株式会社読売新聞社 | 福岡県柔道協会 |
| キリンビール株式会社 | 総合警備保障株式会社 | フジタス工業株式会社 | RKB毎日放送株式会社 | 財団法人東京都柔道連盟 |
| 近畿通関株式会社 | ダイコロ株式会社 | 丸大食品株式会社 | 九州朝日放送株式会社 | 秋田県柔道連盟 |
| 久慈市 | 株式会社津留美 | 三起商行株式会社 | 山陽放送株式会社 | 愛知県柔道連盟 |
| コニカ株式会社 | 株式会社電通 | ミズノ株式会社 | 株式会社東京放送 | 岡山県柔道連盟 |
| 株式会社小松製作所 | 東京スポーツ新聞社 | 株式会社マッス | 全国朝日放送株式会社 | 大阪府柔道連盟 |
| サクラインターナショナル株式会社 | 東洋水産株式会社 | 株式会社横浜そごう | 株式会社テレビ東京 | 熊本県柔道協会 |
| | | | 日本テレビ放送網株式会社 | |
| | | | 日本放送協会 | |

50周年記念 顧問・参与就任者

顧問

林田 悠紀夫

参与

柳澤 甚之助 佐野 俊男 岩見 裕至
青木 五郎 西田 亀 久保田 迪夫
女川 弥一郎 山本 富男 横田 和孝
池田 忠雄 平田 良吉 山内 旦
山辺 正路 森田 荘二 成毛 秀臣
東 正雄 橋元 親 矢口 次夫
新村 幸治 池田 幹 和村 公男

50周年を記念して、長く柔道界を指導され、貢献されました22名の方々が顧問、参与に就任されました。

五段

武田 昭男 櫻村 幸太郎 伊藤 佳幸 吉田 儀典 両川 敏之 伊藤 孝勇 小関 茂 大槻 竹久 益山 吉男 渡辺 諄一 吉田 作衛 小室 治 伊藤 仁久 齊藤 実 佐藤 光祐 小倉 新 原 泰之 高橋 呈介 富岡 登 荻野 功 小川 憲司	若山 登喜男 影森 收 西野 一好 門井 仲夫 西澤 良一 宮岡 里次 佐山 幸司 小林 晃 井上 直哉 小松 賢司 吉富 孝則 小澤 秀次 森田 一 伊藤 尚文 古川 喜代志 綿貫 正人 佐藤 忠一郎 齋藤 正寛 高野 甚一郎 青沼 和宏 谷村 善男	山田 章夫 古田 道寛 大畑 幸松 有馬 彦藏 高畑 稔 舟橋 幸甚 梅澤 晃 山岡 和夫 中川 長成 野村 一郎 新夕 清一 高松 哲夫 大場 忠夫 大房 龍雄 渡辺 武士 中川 義博 仙納 利信 若林 秀徳 高島 辰夫 島田 貞之 高嶋 勝二	村上 忠儀 東 幸雄 杉本 久実男 酒井 猛 高橋 嗣男 服部 謙司 渋谷 昇 長村 利道 海老原 勉 岡嶋 威典 山田 伸一 大津 慶明 小林 秀行 吉本 齐 長谷川 光輝 西馬 嘉助 久高 幸一郎 藤原 健司 久保 彌 萩原 信秀	佐藤 利一 土師 義平 吉田 勲隆 安田 太 福光 道太 廣畑 実 平井 捷治 宮崎 哲一 錦 信好 魚澄 豊治 盛山 穰 岩元 健 明石 義人 土井 啓充 一丸 正敏 大和 浩之 中村 雅和 梶浦 敏和 青枝 秀尚 安田 剛 西口 寿士	前川 寿敬 金川 慶蔵 竹ノ内 謙信 門屋 方典 小島 茂嘉 橋本 浩晃 瀬戸島 孝夫 田淵 健二 福井 俊典 山村 雅一 岡西 穰 安岡 昭彦 丸谷 武勝 磯部 正司 石坂 修一 渡辺 晃嗣 石原 千載 加藤 次男 塚本 征支郎 田中 克実 角田 允	塩川 達夫 平河 輝彦 古賀 秀作 稲又 孝烈 松岡 孝烈 於保 邦彦 黒岩 浩隆 龍造寺 宏紀 加島 昇 中島 保幸 日當 三千男 椎野 長生 涌水 邦英 濱本 東海夫 岩尾 久士
---	--	---	--	---	--	---

50周年記念特別昇段者

柔道の普及・発展を底辺で地道に支え、尽くした功績者・576名の方々（五段以下、弐段まで、女子は初、弐段まで）が、特別昇段の栄に輝きました。

四段

武田 俊彦 鶴木 真也 池田 勝雄 安部 豊 林 有一郎 齋藤 稔 室 活廣 大越 秀明 平田 和信 田中 吉宗 田村 清 鈴木 康夫 金澤 八郎 篠原 茂雄 小嶋 祐一 栗原 良雄 内田 滋実 反町 晴美 浅倉 朋弘 田川 司郎 町田 泰雄 町田 一 戸澤 浩正 廿楽 征夫 戸松 泰介 高桑 洋志 齊藤 登 座光寺 幸男 小張 尚弘 杉村 伸一 上原 公夫	石井 正猛 福井 鑛之輔 小松 隆 水戸 健一 浦野 文一 前田 清 金子 優 知本 邦夫 菊地 敬助 原 洋明 滝澤 宗志 勝又 敏 藤原 浩 吉澤 勝喜 坂井 昭二 三井 邦夫 田口 文治 下野 仁士 谷川 寛俊 加藤 仁一 竹中 秋男 大石 芳齊 菱谷 杉藏 深美 政明 島田 進 高野 俊道 吉竹 義治 早苗 規善 早苗 佐利 大野 貞雄 表 孝信	森越 隆士 白川 末孝 杉本 孝雄 吉野 正志 野尻 幸平 辻 昭彦 國友 正一 岡野 篤男 中塚 勉 不動田 英彦 嶽 和佳 坂本 茂 嶽 昭男 鍛冶 俊嗣 道下 利信 中川 外志彦 藤沢 勝 椿原 美津範 川村 信彦 大石 勝義 杉山 信宏 高橋 陽悦 小友 昭夫 福岡 昭雄 世古 修一 岡 俊晴 岩崎 三二 梶本 雅憲 西村 孝雅 笠谷 和弘 阿井 隆夫	天野 隆志 岩崎 隆 中村 建夫 是則 今朝美 宮前 喜芳 宮本 雄三 新井 清正 白井 清 中谷 和人 岩橋 昌男 内田 俊道 加藤 史雄 永井 久典 福山 秀一 村田 幸男 河合 秀憲 阿児 英夫 北出 晋二 板東 正人 鷲根 行男 中岡 守 口野 隆弘 西埜 治也 小笠原 輝賢 富永 洋 小路 三千雄 山本 憲正 紺田 時弘 岡本 任正 北本 美喜男 池田 庄一	遠近 基文 宮本 正 姫野 直樹 大屋 智次 衛藤 喜徳 吉本 勝喜 篠原 幸治 白水 光広 安部 忠男 野々原 敏朗 宝住 朝喜 黒岩 祐司 浅野 嘉平 田中 秀信 南里 勝利 久保 晴義 坂口 誠 吉丸 美喜男 西宮 裕二 木村 次男 安谷 繁男 渡辺 裕二 松山 基博 中崎 一夫 竹中 裕次郎 児玉 清一郎 崎田 要司
--	--	---	---	---

会員募集中



あなたの1枚が柔道を支える!

JOCスポーツマンカードを
ご利用いただけますと、
そのご利用金額の一部が
自動的に(財)全日本柔道連盟に支払われ、
主にスポーツ選手の強化資金として
使われます。

お問い合わせ
(財)全日本柔道連盟
総務部・総務課

「登録促進年」2年目へ 登録委員会



前年度の登録促進年を引き続き継続し、会員相互の理解と協力を求め、制度の拡充を図り、以上の事を促進する為に、次の事業を実施する。

I. 登録人口拡大の為に 具体的方法

- 柔道の現場を活性化するための諸施策を実行する。
- 組織・団体の役員・指導者登録の徹底を図る。
 - 過去の遡及は平成11年度に限り、行わないものとする。
 - 「創立50周年記念・登録促進」の2年目として、昇段する場合の遡及は平成11年度を含めて3年間のみとする。
 - 全柔連だより、雑誌柔道、近代柔道など通じて積極的なPRを行う。
- 大会などの行事に参加する役員・選手の登録について、事前確認の徹底を図る。
- 法人登録の拡大は、本年度は都道府県柔道連盟（協会）に必ず普通法人会員4口以上の獲得をお願いする。
- 「サポーター」的登録会員制度の検討を行い、早期に具体案を策定する。

II. 登録コンピューター導入

全柔連独自の登録コンピューター導入により、各部都道府県柔道連盟（協会）と連携して、コンピューターの利用を図るとともに、パソコンの利用促進をさらに進める。

III. 登録モデル県・登録強化県を設定

- 登録モデル県について
 - 委嘱県
秋田県、島根県、沖縄県以上3県。
 - モデル県の委嘱内容
 - 「複数年登録」の実験的導入
大学生4年、高校生3年、中学生3年、小学生6年
登録会費は複数年分を一括納入

（小年生は無料）

- プラスチック登録カードの採用。
 - 「複数年登録」により、プラスチック登録カードを小・中・高・大学生に採用する。
 - 単年度登録の一般・指導者には5年間有効のプラスチック登録カードを捺印し、登録費納入時に、裏面に1年毎の登録済シールを貼るようにする。
 - プラスチック登録カードはネットワークピースを利用して、付加価値を高め、試合時に常時携帯しID

カードとする。

d その他

- 登録コンピューターのデータを最大限利用する方法を検討する。
- 登録強化県について
 - 委嘱県
北海道、岩手県、東京都、兵庫県、長崎県以上5都道県。
 - 強化県の委嘱内容
 - 登録促進の為の状況の把握
 - 登録減少部分の原因調査と対応策を具体的に策定する。

登録の仕組み

- 登録する個人または団体は、個人の居住地（団体の場合は所在地）または個人が所属する団体の所在地のいずれかを統括する都道府県柔道連盟（協会）を通して登録します。
- 登録の申請は全柔連所定の登録申請書を使用し、毎年5月末までに手続きをしなければなりません。登録費は登録手続きのおり同時に納入します。期限をすぎても追加登録の手続きは出来ず。
- 登録手続きが完了しましたら、全柔連発行の「登録証」が発行されます。
- 登録手続きの事務の流れは次の通りです。

個人・団体

下部組織（都道府県支部）

都道府県柔道連盟（協会）

全日本柔道連盟事務局

例 東京都柔道連盟の登録費の内容（年会費）

単位円

		全柔連本部 納入額(A)	東京都柔道連盟 納入額(B)	都柔道下部団体 納入額(C)	会員納入額 (A+B+C)
競技者登録	一般	1,000	1,000	1,000	3,000
	大学生	700	700	700	2,100
	高校生	400	400	400	1,200
	中学生	200	200	200	600
	小学生	0	0	0	0
指導者登録		2,000	2,000	2,000	6,000
審判員登録	Aライセンス	2,000	0	0	2,000
	Bライセンス	500	500	0	1,000
	Cライセンス	250	500	0	500
	顧問審査員	10,000	0	0	10,000
特別会員	特別会員	10,000	10,000	10,000	30,000
	終身会員	100,000	100,000	100,000	300,000
	普通法人会員	25,000	5,000	20,000	50,000
	特別法人会員	50,000	10,000	40,000	100,000
団体登録	一般	4,000	4,000	4,000	12,000
	大学生	2,000	2,000	2,000	6,000
	高校生	1,000	1,000	1,000	3,000
	中学生	1,000	1,000	1,000	3,000
	小年(中)	1,000	1,000	1,000	3,000
	少年(小学生以下のみ)	0	0	0	0



日本柔道の心を持つ“青い眼の侍”

“天理大OB”F.キブツ7段(スイス)の近況

スイス柔道連盟は1937年に発足、小さな連盟だが歴史は古く、オリンピックや世界選手権大会でもメダルを獲得するなど、素晴らしい成績を残しております。東京オリンピックの軽量級でヘンニ選手が銀メダルに輝いたことを記憶する日本の方も多いと思います。私は幼い頃から日本に憧れて14歳でヌーシャテル町の柔道クラブに入り、柔道を始めました。1961年に日本から安堂先生(天理大OB)が来ておられ、素晴らしい日本の柔道、天理柔道を知りました。2ヶ月過ぎたころ、安堂先生のところに天理教二代目真柱中山正善様がスイスにお越しになり、そのころ私は父に日本へ柔道の勉強に行かせて欲しいと頼んでおり、父からも二代目真柱様をお願いいただき天理大学日本語学科の留学が決まりました。

1962年9月に天理に向かい日本の生活が始まりました。私はまだ19歳の若さでした。天理での日々は朝から日本語学校。午後からは柔道の稽古。最初のうちは体重も減る一方で食事の方も違ってとても困りました。柔道の方は申すまでもなく言葉が分からないので頭が痛み、一日も早く日本語をマスターしたいと毎日のように夜中、日本語の辞書とにらめっこの日々。言葉の方も分かって来るにつれ、松本安市



1998年の正力杯国際大会におけるギブツさん(中央)

フェドリック・キブツ略歴
1943年8月10日生まれ。スイス出身。56歳。スイス国スポーツ理事。スイス柔道連盟審判委員長。同試合部委員長。国際柔道連盟A級審判員。スイスのヌーシャテル在住。愛妻の美好さんとの間に一男二女の家族がいる。講道館7段。

先生はじめ諸先生方から「キブツは真面目によくやっている」と言われるようになりました。

松本先生には、稽古では大変厳しく、時にはやさしく指導していただきました。今でも松本先生に御指導を受けたことは決して忘れておりません。日本柔道の心を教えていただきました。心より感謝いたしております。そのころ東京オリンピックの前と言う事でドイツのホフマン君、シュミット君、フランスのシュードル君、アメリカのミッキー土田君、英国のフランク君の各国のチャンピオンと私の6名が天理大柔道場で日々稽古に励んでおりました。

そのおかげで天理の成果を十二分に発揮でき、スイス国内で8回連続優勝。ミュンヘン五輪出場、ブラジルでの世界選手権大会では銅メダルを獲得することができました。ローザンヌでの世界選手権大会を最後に第一線を退き、スイスナショナルコーチに就任し現在スイス国スポーツ理事、柔道連盟審判委員長の役職につき、国際A級審判員として数々の国際大会審判員として活動しております。又キブツ・カンパニー時計ガラス製造株式会社の社長としても多忙な日々を送りながらも日本の柔道家や世界各国の柔道の素晴らしい友人達がスイスを訪れ交流を続けています。

柔道の魅力は「何者も間に介さないで、人間と人間が全力でぶつかり合うことのすばらしさ」と、又礼儀を重んじる人間形成の道でもあると思います。

世界の人々は日本柔道の強さとすばらしさ、そして長い伝統がある事を知っています。外国柔道は精神修業の道と言うよりも、スポーツと割り切って日本柔道を打倒するために対策を立てています。指導方法は色々変わって

▶懐かしい「天理」の名が入った柔道衣をつけて稽古に励んでいた頃のギブツさん



1965年のリオの世界選手権大会でのスナップ。松本安市(左)、曾根康治(右)両氏と共に。中央がギブツさん

おりますが、昔ながらの日本柔道を今も続けている事は大変すばらしい事だと思います。

柔道を通じて外国柔道と切磋琢磨し未来永劫の日本柔道であってほしいと願い、全日本柔道連盟50周年を向かえ心より御祝い申し上げます。

スイスより心をこめて。

フェドリック・キブツ



栗津正蔵氏が仏で叙勲

半世紀にわたってフランス柔道界の発展に尽した栗津正蔵氏(76歳)に、フランス政府からレジオン・ドヌール勲章(五等勲章のシュバリエ章)が授与された。6月9日、パリ市庁で自らの古い教え子でもあるピエール・フィジャック氏(経済・社会協議会名誉会員)から勲章を受けた栗津正蔵氏は「この勲章はフランスと日本、パリと京都の友好関係の勝利であり、私にとっては大変名誉なことである。シラク大統領から直筆の手紙を頂いて感謝している。そこにはフランスがこれまで獲得したメダルのことや私の指導法に関する評価もこまかく触れられていた。柔道一筋の人生であり、今後もフランス柔道のために貢献したい」と叙勲の喜びを述べている。

レジオン・ドヌール勲章は1802年にナポレオン一世により制定されたもので、レジオンとは軍隊の部隊、ドヌールは名誉の意

味。元来は軍功者に授与されたものだが、現在は広く社会、文化、スポーツなど多方面での功績者に授けられている。

栗津正蔵氏は1923年(大正12)4月18日生まれ。京都府出身で立命館大学卒業。1950年に、戦前からフランスで指導されていた川石造之助氏が後継者を探していた時期でもあり、栗津氏の同郷の大先達、栗原民雄氏の勧めで渡仏した。当初は1年間の予定だったが、フランス柔道連盟の選手強化に携わることになり、そのまま残って50年間に及ぶ指導をすることとなった。

ナショナルチームのコーチ歴も古く、1956年の東京・蔵前国技館での第一回世界柔道選手権に参加。クルティエヌが銅メダルに輝いた。2年後の東京体育館での第2回世界柔道選手権でもパリゼが銅メダル。1964年東京オリンピックではフランスチームのコーチを務めた。パリで最古のスポー



半世紀にわたるフランス柔道の指導で「レジオン・ドヌール勲章」を受けた栗津正蔵氏

ックラブとして知られる「レーシングクラブ」でも指導に当たり、度々フランスチームを同行して天理大で強化合宿を行うなど日仏柔道交流の架け橋となった。現在はナショナルチームを退き、レーシングクラブで週1回「真の柔道の技とは」という観点から指導を行っている。講道館8段、国際柔道連盟9段である。

竹内氏アジア柔道連盟会長に 川口氏は審判理事に

／アジア柔道連盟総会

新しいアジア柔道連盟(JUA)会長に竹内善徳氏(62)が選ばれた。6月23日、JUAは中国の温州で開催された総会において任期切れの役員改選を行い、竹内氏を新会長に選出した。これまでJUAで審判理事を務めていた竹内氏が、前会長のジャグディッシュ・タイトラー氏(インド)を26対10(有効投票36)で破って当選した。これにより竹内氏は5大陸柔道連盟会長として国際柔道連盟(IJF)副会長にも就任することになる。

また竹内氏の後任の審判理事には川口孝夫氏(49)が立候補して当選した。任期はいずれも4年間。

6月29日の全柔連評議会で竹内氏は「全

柔連から推薦されて、選挙まで6カ月間運動してきたが、お陰様で当選することが出来ました。ご支援を感謝いたします。今後4年間、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いたします。」と新任の挨拶を述べ

た。川口氏も、「立候補当初から厳しい状況と聞いていたのでそれなりに覚悟して選挙に臨んだ。当選することが出来てホッとしている。柔道の長い歴史の中でアジアにおける日本柔道が非常に大きな役割を占めていることを痛感しています。今後は正しい柔道の普及と発展を目指し、審判理事の立場から頑張りますのでよろしくご指導下さい」と抱負を語っている。



竹内 善徳

1937年8月27日生まれ、北海道出身。東京教育大学卒業。現在、筑波大学教授、全日本柔道連盟理事、講道館8段。



川口 孝夫

1950年4月13日生まれ、広島県出身。明治大学卒業。現在、広島矯正管区法務教官、全日本柔道連盟審判委員会副委員長、講道館7段。

Close-up

～ 実業柔道の神髄見せた～

全日本実業柔道連盟は1985年から技術向上、国際的人材づくり等を目的に海外派遣事業に取り組んできました。

今回、昨年に引き続き全日本柔道連盟の推薦を戴き、第7回ベトナム国際大会に、役員・選手16名を派遣しました。

結果は、金メダル12個、銀メダル1個、銅メダル1個とこれまでで最高の成績でした。特にコーチとして派遣した丸田氏(NTT監督)が100kg超級選手の怪我により急遽出場、惜しくも銀メダルとなったが、42歳と言う年齢を考えると、実業柔道の

神髄である“生涯柔道”をまさに身をもって示した形であり、称賛に値すると思えます。

なお、今回の派遣に御尽力戴いた全日本柔道連盟、ベトナム柔道協会並びに、関係各位にお礼を申し上げると共に、今後のベトナム柔道協会の発展とベトナム国際柔道大会の更なる発展をお祈り申し上げます。

(文責：田村信一)



こう変わる！ 中学生の新体重区分と階級増

平成12年度全国中学校柔道大会（大分県）から、男女個人戦の新体重区分と階級増（4階級→7階級）が実施されることになった。体重区分の幅を小さくすることで安全性が高まり、発育期の中学生にとって減量の辛さも緩和される。

平成11年3月の日本中学校体育連盟理事会で、全国中学校柔道大会の新体重区分と階級増が承認された。日本中

体連柔道競技部では7年前から要望していたという。平成10年より一般柔道競技が、IJF（国際柔道連盟）の新体

重区分で実施されている。これを踏まえて、今回の改定に至った。

現行の4階級では、例えば男子78kg級の場合、その下の65kg級との差は13kgもある。70kgの選手ならば、8kgの体重差で試合をするか、5kgの減量を強いられることになる。また女子の56kg超級では、57kgを少し超えるような選手が、80kgある選手と戦わねばならないこともあった。こういった中学生の負担の軽減を図ることができる。

日本中学校体育連盟では財政難の時代を反映して、大会の規模拡大は一切行わない方針であるが、安全への配慮から特別に認められることになった。

施行は、来年度の全国大会からだだが、各県、支部レベルでは、この秋の新人戦からの実施となるところが多い。しかしながら、規模の小さな大会では、階級増による選手層の薄さや大会運営の負担増が懸念される。

日本中学校体育連盟柔道競技部の金坂茂部長は、「繰り返し要望してきた新体重区分・階級増の問題がようやく進展をみた。各県大会では、運営の負担増もあるが、生徒の選択肢を広げ個性の伸長を図ることができる」と語る。また、ジュニア強化の側面から「中学と高校、大学・一般との一貫した強化が容易になり、中学生が世界に羽ばたくチャンスも増えるだろう」と述べている。

来年の全国大会に向けて、新体重区分を意識しての練習、階級増に対応した支部大会が始まっている。大分大会は、2000年という節目と新制度による、歴史に残る大会となるであろう。

▶ 男子

中体連現行の体重区分	- 55	- 65	- 78	+ 78				
IJFの体重区分		- 60	- 66	- 73	- 81	- 90	- 100	+ 100
中体連の新体重区分	- 55	- 60	- 66	- 73	- 81	- 90	+ 90	

▶ 女子

中体連現行の体重区分	- 48	- 52	- 56	+ 56				
IJFの体重区分		- 48	- 52	- 57	- 63	- 70	- 78	+ 78
中体連の新体重区分	- 44	- 48	- 52	- 57	- 63	- 70	+ 70	



「計量OK、やっと安心して食事できるね」 全国中学校柔道大会（福井県）より

応援します！全柔連

（財）全日本柔道連盟法人会員（1998～99年度）
（平成11年8月31日現在）

有限会社葵興産
株式会社青山
社団法人秋田県柔道整復師会
株式会社アクティブ
旭化成工業株式会社
味岡建設株式会社
株式会社池田建設
石井化成工業株式会社
イースタンモータース株式会社
有限会社泉自動車内張工場
伊藤忠商事株式会社
株式会社井上建設
エース工機株式会社

株式会社エム・エス経営企画
有限会社大久保石材店
大阪府柔道連盟
大城開発株式会社
株式会社市鹿興業社
社団法人岡山県柔道整復師会
岡山プラザホテル
有限会社沖榮建設
沖縄管財株式会社
おさつ歯科医院
医療法人社団豊医会小沢医院
尾田内科医院
社団法人香川県接骨師会

有限会社かがわパーソナル
片山建設株式会社開東支店
株式会社社和臣建設
社団法人神奈川県柔道整復師会
加藤産業株式会社
社団法人加藤道場
神奈川県柔道連盟
株式会社川原組
株式会社神田製作所
九州石油株式会社
株式会社九州トンネル研究所
協栄興産株式会社
共立鉱業株式会社

きらく荘
近畿通関株式会社
黒住教武道館生々館道場
クニメディア株式会社
社団法人熊本県建設業協会
熊本打球業協同組合
社団法人恵新学園
KSシステムズ株式会社
株式会社ケイデイ工業
京葉ガス株式会社
株式会社建武堂
株式会社コイルセンターフジタ
有限会社甲文堂
株式会社コスギ不動産
小松エンジニアリング株式会社
小塚・コザボリング
有限会社コンチェルト新宿
株式会社サイトーター
佐伯和成

サクラインターナショナル株式会社
佐藤企業株式会社
三荘企業株式会社
山陽放送株式会社
塩野谷商事株式会社
四国商事株式会社
学校法人島谷学園
株式会社清水園
シャープ株式会社TFT液晶事業本部
医療法人十全会
株式会社上越テクノセンター
常陽銀行
医療法人社団自由が丘
株式会社シンセイ
株式会社千葉そごう
新日本製鐵株式会社
新日本プロレスリング株式会社
巣鴨学園
セイカ食品株式会社

高体連トピックス

国際交流にも取り組んでいます！ 日米高校柔道教師・生徒の国際交流について

毎夏、熱戦が展開される高校総体、そして春の高校選手権と大会がクローズアップされることが多いのですが、全国高体連柔道部では教育の一環として、国際交流にも積極的に取り組んでいます。今回は、今年で45回を数えた交流事業について事務局に聞きました。

『この事業は昭和42年(1967年)に始まりました。当初は、試合を中心とする交流でしたが、両国関係者の間で検討を重ね、昭和53年(1978年)ホームステイ中心の交流に変わりました。

現在は、毎年3月、日本から、教師・生徒の一行が訪米し、6月に米国の一行が

来日するという形で回を重ねています。それぞれ、約3週間ずつ滞在をします。この間、参加したメンバーは、ホストファミリーのお宅にホームステイし、割り当てられた学校に通うことになります。

先生方は各校で実際に授業に参加をしたり、授業やクラブ等で指導をすることもあります。また、生徒も授業やクラブに参加したり、一緒に過ごすことで、同世代の若者たちとの相互理解を深めます。

この交流事業が目的としているのは単なる柔道交流ではありません。ホームステイをすることによって、民情に触れ、異文化を理解する力をつけること、そして



夜間の練習会(タコマのYMCA道場にて)

広い世界観を身につけることが求められているのです。これからの時代に活躍が期待される生徒と、その育成にたずさわる現場の先生方にとって、非常に有意義な交流の一つと考えています。これまでに訪米した教師・生徒はおよそ400名。今後も積極的な参加を期待するとともに、関係の皆様のご協力をお願いいたします。』

(問い合わせ先: 埼玉県立幸手高校 小池雅彦 電話: 0480-48-0951)



おめでとう! 隻腕の高校生、念願の黒帯に 熊本県で2人目の快挙

球磨工高の林守初段

隻腕の少年の執念が実って、あこがれの黒帯に合格した。幼少のころ、事故で右腕を切断するはめとなった熊本県・球磨工業高校3年の林守君(17、同県人吉市大畑籠町)が夏休み前の6月中旬に念願の柔道初段審査に合格した。林君は柔道を習い始めて3年目。4度目の挑戦で手にした黒帯だけに喜びも人一倍だ。

林君は4歳の時に、誤って実家の飼料カッターに右手を挟まれてヒジから下を失うという不幸に見舞われた。だが、守少年はくじけなかった。小学校でも中学校でもサッカーをはじめソフトボール、卓球など球技に熱中してハンディを感じさせない頑張りを見せた。

熊本は戦前から柔道の盛んな土地柄である。戦前は木村政彦(故人)戦後になってからも上村春樹、山下泰裕といった大選手が育っている。林君も高校入学と同時に「自分の心身を鍛えるには柔道が最適」と考えて柔道部に入部した。

しかし、小柄な林君にとって片腕だけの柔道は楽ではなかった。受け身をマスターすると、最初は一方的に投げられる日が続いた。投げ技はなかなか身につけられなかったが、それでも速い動きから相手の足を狙って崩し、次の瞬間右からの一本背負いに持ち込むのが得意となった。

これまで初段審査を3回うけたが、いずれも全敗で黒帯の夢は果たせなかった。同級生の大半は初段に昇段していた。

一時は「僕はダメなのか」という焦りで悩んだ。ところが昨年、自分と同じ隻腕の八代南高校の柔道部員がハンディを克服して黒帯になったというニュースが流れた。

林君にとっては光明だった。「片腕でも努力次第で初段になれるぞ、僕も卒業までに必ず黒帯を始めてやる」と、心に誓い、その執念が実った。6月中旬の人吉市での昇段審査で見事に合格した。それも関節技、締め技、大外刈りと3試合連続の

一本勝ちで文句のないものだった。

「高校での最後のチャンスと必死でした。念願がかなって、いい思い出となった。卒業後も柔道を続けて、さらに上の段位を目指したいです」と林君は目を輝かせて語っている。嘉納治五郎師範は柔道の目的を究極的に「知育、徳育、体育」の立場で考えたが、林君の努力は、その柔道の理想を地で行くものだ。柔道を通じての人間教育を理想とした嘉納師範もきっと「ガンバレ!!」と声援を送っていることだろう。林君は今、就職活動に入っているが、このチャレンジ精神は社会に出ても大きな勇気となることだ。

(文責: 坂本篤正)



▶あこがれの初段を獲得した熊本・球磨工高の林守君

- | | | | | |
|---------------------|---------------------|------------------|-------------------|---------------|
| 西武建設株式会社 | 帝京大学 | 日本海外サービス株式会社 | 有限会社富士企画 | 三菱化学産資株式会社 |
| 全国朝日放送株式会社 | 帝人株式会社松山事業所 | 日本通運株式会社 | 富士ゼロックス株式会社城北支店 | 三菱化学物流株式会社 |
| 全国警備保障株式会社 | 株式会社テクニカル・インターナショナル | 日本道路公団 | 二葉印刷株式会社 | 社団法人宮城県柔道整復師会 |
| 仙北土建株式会社 | 医療法人寺尾会寺尾病院 | 日本中央競馬会 | 府中運送株式会社 | 株式会社六三四堂 |
| 株式会社そごう | 東京コンドルタクシー株式会社 | 日本ブラバレット株式会社 | 株式会社ブラザ林 | 株式会社明興建設 |
| 大賀開発株式会社 | 株式会社東芝 | 日本ユースサポート株式会社 | 社団法人北海道柔道整復師会 | 明徳輸送株式会社 |
| ダイコロ株式会社 | 医療法人社団徳治会吉永歯科医院 | 日本流通センター株式会社 | 本田技研工業株式会社熊本製作所 | 森下武道衣株式会社 |
| 大進株式会社 | 道都大学 | 株式会社日本旅行 | 株式会社本の友社 | 柳光照 |
| 株式会社大成不動産 | 飛鳥建設株式会社 | 株式会社橋口組 | 本間運輸株式会社 | 山田ゴム工業株式会社 |
| 辰野株式会社 | 飛嶋歯科医院 | 株式会社花井組 | 前田建設工業株式会社 | 有限会社山本電工 |
| 太平工業株式会社 | 合資会社中仙産業 | 花岡土建株式会社 | 株式会社増永組 | 柔の会 |
| 大洋建設株式会社 | 長島鋳物株式会社 | 医療法人林田会 | 株式会社マタヨシ開発 | 郵船航空サービス株式会社 |
| 大和ガス株式会社 | 那須セメント工業株式会社 | 株式会社肥後銀行 | 松前柔道塾 | ユーエス電気工業株式会社 |
| 大和工務リース株式会社ロイヤルイン文京 | 社団法人奈良県柔道接骨師会 | 社団法人兵庫県柔道接骨師会 | 株式会社マッス | 株式会社横山商店 |
| ダウ・ポリウレタン日本株式会社 | 西原ネオ工業株式会社仙台事業所 | 広島彫刻工業株式会社 | 株式会社マルイ | 学校法人米田学園 |
| 株式会社高橋清次商店 | 株式会社日鉄エレックス | 有限会社ヒロプランニングオフィス | 丸沼建設株式会社 | 株式会社ラステック |
| 高橋不動産株式会社 | 日水製薬株式会社 | フェザー安全剃刀株式会社 | 株式会社三浦組 | 株式会社リコー |
| 株式会社竹腰 | 日鐵商事株式会社 | 社団法人福岡県柔道整復師会 | 三笠コカ・コーラボトリング株式会社 | 株式会社リナン |
| 千葉県柔道連盟 | 日東化工株式会社 | 社団法人福島県柔道接骨師会 | 有限会社三井商事ニューセブン | 老人医療福祉研究会 |

全日本柔道連盟
J.F.A. JAPAN

平成11年度 ジュニアブロック合宿(平成11年12月17日~20日)付帯イベント

50th

JUDO FESTA

平成11年12月19日

楽しいイベントが盛りだくさんだよ!
メダリストのトーク

講師・選手との各種ゲーム大会
講師・選手とのふれあい大会



★東北・北海道ブロック★

【会場】秋田県青少年交流センター
ユースパル(秋田県秋田市)
【講師】斎藤仁、大迫明伸、向井幹博、
南真稀、木村高彦
【選手】古賀裕彦、鈴木柱治、堀内将彦、
二宮美穂、橋崎教子



★北信越・関東ブロック★

【会場】鹿嶋市立カシマ
スポーツセンター
(茨城県鹿嶋市)
【講師】西田孝宏、神田達人、
野手実輝、山口香、
出口凌也
【選手】藤原悠一、
中村佳央、
中村廉三、
真壁友枝、
武田淳子

★中国・四国ブロック★

【会場】香川県総合体育館
(香川県善通寺市)
【講師】山下泰祐、吉岡幸春、
本松好正、鈴木若葉
【選手】中村行成、榎田康幸、
上野雅恵、永井和恵



★近畿・東海ブロック★

【会場】愛知県武道館
(愛知県名古屋市)
【講師】堀川伸二、岡田弘隆、
吉村和郎、山本洋祐
【選手】吉田秀彦、徳野和彦、
長井淳子、木本奈美、
阿武教子

★九州ブロック★

【会場】鹿児島アリーナ
(鹿児島県鹿児島市)
【講師】上村春樹、高野裕光、
岡家茂、日慈暢年
【選手】野村忠宏、井上康生、田村亮子、
前田純子、佐野奈津子



お問い合わせ：(財)全日本柔道連盟 企画広報課 TEL.03-3818-4199まで

全日本柔道連盟

平成11年度『総額7億3044万円』 運用計画決まる！

- 全柔連理事会報告 -

さる6月29日に理事会が行われました。平成10年度の事業報告・決算報告がなされ、続いて前号(15号)の予算案報告より、総額で約5千800万円増の7億3044.9万円の修正収支予算書が承認されました。その他、登録者数の増加が、顕著な都道府県柔道連盟(協会)の表彰などについての協議がなされたので、概要を紹介します。

平成10年度の事業報告

ワールドカップ男子優勝の他、世界ジュニア選手権では、男女合わせて、金5個、銀3個、銅2個を獲得したこと。又、10年度よりオフィシャルサプライヤー・公認・推薦制度を導入したことで、約4,000万円の収入を確保したこと等、各委員会の事業報告が承認されました。

登録に関する表彰

登録会員の増加の数が顕著な都道府県柔道連盟(協会)の表彰が行われます。

過去3カ年の平均と比較して、登録会員数の増加率で検討しました。

1. 総登録会員数について上位5県

- ・佐賀県柔道協会
- ・福島県柔道連盟
- ・沖縄県柔道連盟
- ・熊本県柔道協会
- ・島根県柔道連盟

2. 指導者登録会員数について上位3県

- ・静岡県柔道協会
- ・三重県柔道協会
- ・栃木県柔道連盟

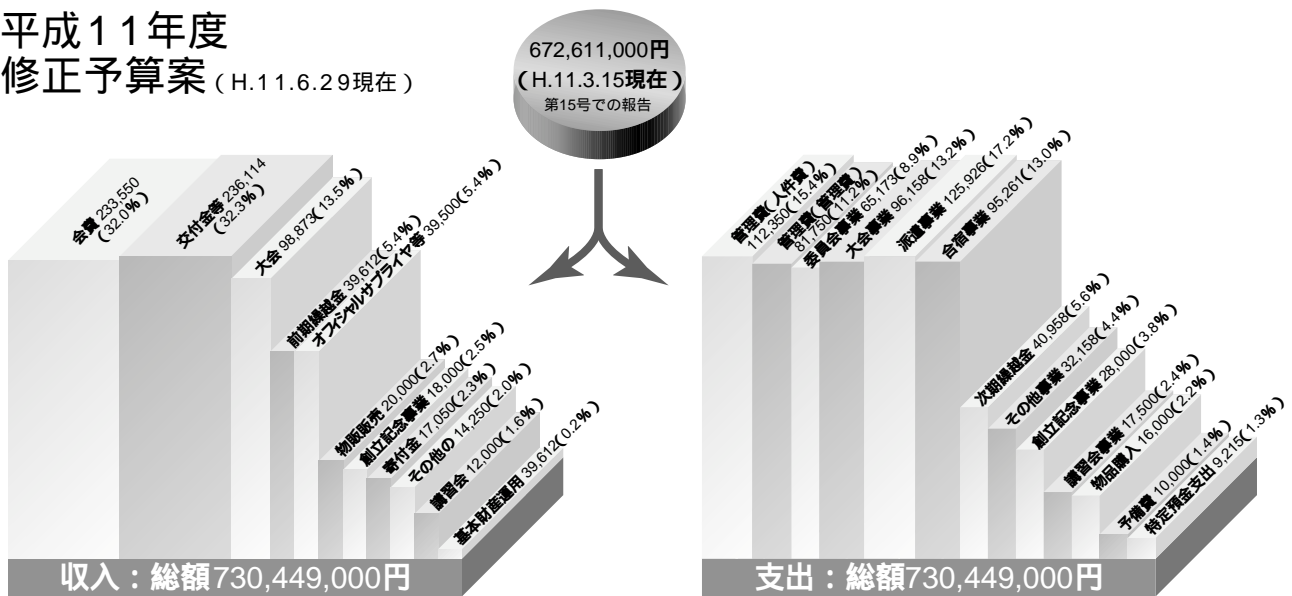
3. 人口に比較して、総登録会員数の割合上位5県

- ・佐賀県柔道協会
- ・滋賀県柔道連盟
- ・栃木県柔道連盟
- ・静岡県柔道協会
- ・秋田県柔道連盟

平成12年度国体競技について

第55回国体柔道競技について、少年少女参加枠が16チーム 24チームに変更されます。又、女子の試合時間が3分 4分に、試合場数も2会場 3会場に増設されることが決まりました。

平成11年度 修正予算案 (H.11.6.29現在)



東京都内の大会会場へ便利なホテル

平成11年度も講道館を中心に東京都内で全国的柔道大会が数多く開催されます。今回は全柔連がご協賛頂いているホテルをご紹介します。

お申し込みの際は、「全日本柔道連盟登録カード」をご提示下さい。各ホテルとも特別料金にてサービスいたします。ぜひ、ご利用下さい!!

1. ホテルニュー神田

〒101-0063 千代田区神田淡路町2-10
TEL03-3258-3911 担当/ 豎山

2. 秋葉原ワシントンホテル

〒101-0025 千代田区神田佐久間町1-8-3
TEL03-3255-7341 担当/ 加松

3. ロイヤルイン 文京

〒113-0033 文京区本郷1-25-11
TEL03-5804-1011 担当/ 山田

4. ホテルコンチェルト新宿

〒151-0073 渋谷区笹塚1-61-8
TEL03-3378-4666 担当/ 須藤

2000年 全柔連オリジナルカレンダー 柔道競技手帳のご案内



壁掛けカレンダー

壁掛けタイプでサイズを大きくしたため迫力増大
人気活躍選手の写真を多数使用
100部以上100部単位にてネーム入れ可能
(料金別途)
100部以上は2割引
サイズ A3(縦420mm×横297mm)
価格 1部 1,050円(税込み)

拝啓 初秋の候益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
昨年に引き続き、来年度のオリジナル手帳及びカレンダー
を販売することとなりました。

両商品共、全柔連ならではの工夫を
凝らした商品となっておりますので、
この機会にぜひ御利用下さいませよう、
御願ひ申し上げます。



オリジナル手帳

全柔連行事予定を網羅
15ヶ月スケジュール
充実の付録欄
(例)都道府県柔道連盟名簿・歴代大会記録
サイズ・仕様
縦170mm×横82mm・合成皮革表紙
本文 約190頁・別冊アドレス帳付き
価格 1部 1,050円(税込み)

お問い合わせ先



財団法人 全日本柔道連盟

東京都文京区春日1-16-30 講道館内
TEL.03-3818-4199 FAX.03-3812-3995

見本は、99年度版を使用しています。また、写真はあくまでもイメージです。

編集後記

全日本柔道連盟50周年記念事業も主要行事がほとんど終了し、残るは「全柔連50周年記念誌」の発行を待つばかりです。松下三郎委員長を中心に編集委員の面々、完成に向け、柔道愛好家は勿論のこと柔道専門家の方々にとってもご納得いただけるよう、夏休みも返上し全力投球中です。

本号が皆様のお手元に届く頃、英国バーミンガムでは世界選手権が行なわれているでしょう。日本選手団の成績も気になりますが、今一つ気がかりなことがあります。それは先日、新聞報道された「変形柔道着」のことです。国際柔道連盟公式スポンサーで強豪フランス等が使用しているアディダス社製のもので、前襟、奥襟、胸、背中など組手で持つすべての部分の厚さが、通常の2倍もあり、外人に比べ手の小さい日本選手には掴みにくく、不利な柔道着です。しっかり組んで正しい技を仕掛け、外人より技に一日の長のある日本選手を意識しての場外(?)での戦いです。

柔道が柔道らしさを失い、本来の姿から益々遠ざかろうとしている現在、手をこまねているわけにもいきません。日本のリーダーシップが要求されます。幸いアジア柔道連盟会長に竹内善徳・全柔連理事が就任しました。竹内会長を中心にアジア地区からでも、正しい柔道について今一度見直し、アピールする必要があるかと思ひます。読者の皆様はいかがお考えでしょうか。

(編集部長 瀧辺吉博)

「全柔連だより」は皆様のページです

全柔連だより・第16号

発行人/嘉納行光 編集/広報委員会
発行/(財)全日本柔道連盟

〒112-0003 東京都文京区春日1-16-30
講道館内

☎ 03-3818-4199 FAX 03-3812-3995

DTPデザイン・印刷/クニメディア株式会社